

今月の最新ニュース

「BCG経済モデル推進によるタイ投資機会について

重点産業分野：農業・食品 編

BCG (Bio-Circular-Green) 経済モデルから今回は、重点産業分野のひとつとして挙げられている「農業・食品」について、その現況と展望をご紹介します。

タイは元々世界有数の米輸出国でしたが、定期的に国家主導で農業政策が行われ、天然ゴムを始め、さとうきび、トウモロコシ、キャッサバ、フルーツなど農業の多角化が進展しました。近年では、一次製品の付加価値を高めた製造・加工に移行しており、鶏肉、スターチ、コメを中心とする農業関連産業が成長しています。また、エビを中心とした水産業も盛んです。

タイで農水産業に携わる人口は約1300万人と、全就業者の3割近くを占めています。その一方で1ヘクタールごとの生産性や収入が他ASEAN諸国と比較して低いというデータもあり、大きな課題となっています。

そのような中で、農業の付加価値向上に取り組むタイの地場企業「NR INSTANT PRODUCE PUBLIC COMPANY LIMITED」をご紹介します。同社は1991年に創業したSET上場企業であり、調味料、レトルト食品、プラントベース食品、ペットフード（※タイは鶏肉、水産物等が豊富であることから世界第4位のペットフード輸出国となっています）などの製造・販売を行う食品会社です。2022年の売上高は約22億バーツ（88億円）となっており、既にイギリス、アメリカ、インドネシアなど世界30カ国以上で2000アイテム以上の製品が販売されています。

同社は「グローバルトレンドに対応した食品を、タイ国内の豊富な原材料で生産・加工を行う、また各国にパートナーを作る事で流通ハブとしての機能も果たす」といったコンセプトを持っており、非常に注目度が高いと言えます。

近年では、イギリスのスーパーマーケットをパートナー化し、アジア食品を直接流通させる積極的な取り組みを行っています。また、現在下記分野において、日本企業のパートナーも求めています。

- ・タイ北部の製造工場における炭素隔離技術開発
- ・グローバルトレンドである「プラントベース食品」の日本市場向け製品開発・販売
- ・日本市場向けペットフードの製品開発・販売

こうしたタイ企業側のニーズも海外進出のヒントとなるかもしれません。